

## 4 酸素ボンベ関係の事例 ～残量の確認について～

### 発生時の状況と経過

唇の色が悪くなってきたため、すぐに看護師を呼び、SPO2を計ると40%台で酸素ボンベをチェックをすると空になっていた。みるみる唇の色が黒ずみ、あくびが出てきた。

### 発生時の対応と処置

新しいボンベに替え、酸素吸入するとSPO2の値も上がり唇の色も戻り、授業を再開することができた。

その後の体調の変化はみられなかった。

保護者には看護師より状況を伝え謝罪し、様子を見ていただくようお願いした。



### 考えられる原因や背景

登校時、保護者よりいつものボンベと大きさは違っているが酸素量はいつもと同じと伝えられていたので、看護師も保護者の言葉通り酸素が終わりそうな時間をいつも通りに計算し待機していた。しかし、今回のボンベは酸素量が少なくなってきたときの減り方がいつものボンベより早かったため、担任が唇の色の少しの変化に気付いた時には酸素がなくなっていた。

### 再発防止に向けた対策・改善点

- ・今後同様の酸素ボンベを装着、または持参された場合は、酸素の残量チェックとバイタルチェックを頻回に行い、早めに交換する。
- ・マスクを嫌がり今回たまたまマスクを着けていなかったため気付けたが、マスクを着けていたら本児の少しの唇の色に変化に気付くことができていなかった。本児にはマスクは着用せず、フェイスシールドを着ける練習をしていきたい。
- ・3分以上酸素が0の状態が続くと脳に影響が出る恐れもあるため、帰宅後の体調を確認する。

### ポイント！

- 今回の事例で事故が発生していた場合は管理責任が問題になることを職員間で共有し、保護者は医療従事者で無いため思い込みの発言のことがあることを認識しましょう。
- フェイスシールドを使用して唇の様子が分かるようにし、少しの変化も見逃さないように常に気を付ける。(担任・看護師)
- いつもと違う引き継ぎ事項がある場合は、通常より多くケアに行き、児の体調や酸素の量等を確認する。(看護師)